

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
1	PFI事業については検討されたのでしょうか。基本構想(案)に記されたように、新技術の導入や発電等に係る技術の導入があるようですし、更にはコスト面に関することを鑑みるとPFI事業についても検討してもよいかと思いました。50億円程度の費用を見込んでいますが、それほど大きな事業ではないので、事業者さんもPFI事業に参入しやすいのではないのでしょうか。何より民間受けも良いと思います。	本基本構想39ページ「事業方式の種類と本市における最適方式の検討」という章で、PFI事業、DBO方式等についての検討を行っております。今後、基本計画を策定していく過程で、再度、新焼却施設の工事及び経営形態を含めた事業方式についての検討を行って参ります。
2	経営形態としてはDBO方式が良い。公設民営が絶対だ。計画段階から行政と業者の癒着が起きないように監視できる体制を作って着手することが望まれる。	
3	焼却炉を建設するならばストーカ炉式、DBO方式が本当に最良なのか、なぜそうなのかももう少し時間をかけて説明する必要がある。建設するのであれば高温炉で性能の良いものを願います。	
4	「建設用地の提案」・「共同での住民説明」・「施設の設計、建設」・「稼働」・「維持管理」・「発生エネルギーの活用」等について民間のノウハウを生かしたらどうでしょう。技術提案や発生エネルギーの活用方法では言うまでもなく、施設の有効利用等などでも収入を見込んだ提案があるかもしれないのでは？	ご意見にございますように、今後、様々な民間企業の技術を十分に検討し、新焼却施設の建設に反映させて参ります。
5	ゴミ焼却施設の比較について、種々のケースを拝見しましたが、それぞれ一長一短があり、いずれが最も理想なケースかというものが特定できません。やはり、当事者である市が、経済性や効率性、環境面など、長期的な観点から判断し、決定していただく必要があろうと考えます。	焼却炉の型式等は、今後も基本計画を策定していく過程で、専門家の意見や市民の方の意見を十分に聴きながら、環境負荷に配慮し、費用対効果、ランニングコスト等の検証を行って参ります。また、焼却施設の選定方法につきましては、総合評価方式も含め、調査・検討し、鎌倉市に最適な焼却炉の選定方法を考えて参ります。
6	基本構想(案)を読むと、焼却炉のタイプとしてストーカータイプが選定されています。一方で市民が必要とするのは、要求される機能を満たすことと、建設費や維持費の安さです。今後入札となった時に、ストーカータイプしか応札できないとなれば、これは一種の指名競争入札と同じです。そして、ストーカータイプの大手業者さんたちは過去何度も公正取引委員会から談合の裁定を受けています。鎌倉市の職員が手慣れたストーカータイプを欲しい気持ちは判りますし、確かに自治体の焼却炉ではストーカータイプが多いようですが、一方で産廃業者さんたちは他のタイプの焼却炉も使っています。したがって、ストーカータイプ以外を初めから排除してしまう必然性は無いと思います。	
7	基本設計が終了する時点まではタイプを特定せず、要求される機能だけを規定し、設計施工の入札においてどのタイプの焼却炉でも応札が可能となるような仕組みで本プロジェクトを遂行することを求めます。	
8	ストーカ炉タイプ焼却施設が前提となっていますが、それ以外の施設も視野に入れ、用地確保・建設費用・実績・性能・エネルギー創出・事業運営方式等の課題について、街づくり・防災計画に沿って、他市の参考事例も有効に活用し、市民が納得できる十分な議論が必要です。	
9	新ごみ処理施設は、焼却を最小限に抑え、環境負荷・資金負担を少なくし、鎌倉市にとって最適の施設とすべし。入札業者の談合を防ぐ面からも、早々とストーカ炉タイプと固定せず、最終業者選択も入札評価額と入札価格以外の評価を組み合わせた総合価値で決める方式にすべきと考えます。	
10	価格だけではなく、技術点と価格点による総合評価方式で入札を行うことにより、信頼性や運転性の確保も担保できると思います。	

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
11	第2章及び第3章の内容は、専門知識をお持ちで実務経験のある方でないと、内容を読み取り数値の妥当性や矛盾点などを指摘することは無理だと考えます。そのような市民は、鎌倉市内におられるとは思いますが、現役で忙しい方が多く、ボランティアで精査をお願いする事は容易なことではないと考えます。むしろ、分かりやすい教材を作り、勉強会あるいは説明会を丹念に行い、市民それぞれがそれぞれの方なりに理解し納得してもらおうか、第三者委員会(のようなもの)に判断をゆだねるべきでしょう。	今後、基本計画等を策定していく過程において、市民の方からの意見を聴く場を設けるとともに、鎌倉市生活環境整備審議会等からいただく専門的な意見を踏まえた上で検討を行って参ります。また、今後も逐時、パブリックコメントを実施し、市民の方からの意見を聴きながら、慎重に検討を重ねて参ります。
12	本件は、環境施設課所轄の案件ですが、家庭ごみの有料化・個別収集化で市民のごみへの感心が高まった今、関連各課が横断的に協力し、情報を共有し、事業の透明性を維持しつつ、一般市民とのコミュニケーションの場を整備すれば、ごみ行政レベルでの官民の合意形成を加速する絶好の機会と見ることもできます。	廃棄物処理施設は、都市に必要な重要施設であり、焼却施設の建設は、鎌倉市をあげて取り組んでいく事業だと考えております。また、専門家の方や、市民の方の意見を聴くことができるような体制を構築し、透明性を確保するため情報を共有しながら本計画を進めて参ります。
13	私が新炉に期待するのは、高効率ではあるが投入ごみの質や量の変動により性能が著しく振れる、あるいは高度な運転ノウハウが必要なタイプより、早期に運転開始が出来、投入物の質や量の変動に無理が利き、近隣処理施設との共通部材が多く、故障時に短時間で修理ができ、長期的に安定に定格運転可能なロバスト(Robust:頑強)なタイプの施設です。	いただいたご意見も参考にさせていただきながら、鎌倉市にとって最適な焼却施設の建設を目指して計画を進めて参ります。
14	10年後を目標とした新設をするのであれば、その計画の段階で最良と思われるものに変更できる柔軟さを持ちながらも環境に負荷をかけない手段を使った施設であることを望みます。	焼却施設等に関わる技術は、日進月歩でありますので、ご要望にありますように、新焼却施設の建設時に、鎌倉市にとって最適な施設となることを目指して計画を進めて参ります。
15	ゴミが目の前から消えてどうなっているかもわからず、捨て続けるような街ではなく、住民がゴミの行く末を理解してゴミを出す、そんなみんなが出入りするようなゴミ処理場になれば最高です。まだまだ使える不用品が、今のリサイクルセンターだけでなく、ゴミ処理場にもあって、市民がそれを有効活用するのに自然に出入りをしているうちに、ゴミや全てのものの循環がわかってしまうようなそんな素敵な場所になったらよいと想像しています。	新焼却施設の建設には創意工夫を凝らし、多くの市民の方が集まることができるような施設、市民の方にとって身近な施設となることを目指して参ります。
16	ゴミ焼却場をマイナスイメージと捉えず、コペンハーゲンのような事例に習い市民が集えるような外観の処理施設にして欲しいです。	鎌倉市のまちづくり、街並みなどに配慮しながら、施設の有効性も含め、鎌倉らしい外観の施設が建設できるよう検討して参ります。また、ごみ収集車につきましては、今後の参考にさせていただきます。
17	ごみ収集車ももっとデザインされたものに。	
18	村上市の新ごみ処理場の整備基本方針のキャッチフレーズ、「環境と循環型社会形成のシンボルとなる施設」は大変良い。鎌倉市も焼却施設を「迷惑施設」のイメージを払拭して、ランドマークとしての機能を果たすと同時に、災害時や防災の観点からも地域に貢献できる公共施設となるよう基本計画策定時には、村上市のようなキャッチフレーズも考えてもらいたい。	ご意見を参考にさせていただきながら、鎌倉市にふさわしい整備方針等を考えるとともに、市民の方にとって身近な施設となることを目指して参ります
19	発電という市民に還元される設備であるとい。一般家庭までとはいわずとも公の施設はその電力でまかなえるとよい。	将来の焼却施設に、発電や余熱利用は不可欠なものと考えておりますので、今後、有効的な発電等の利用を検討して参ります。
20	バイオマス、熱エネルギー回収できる施設であり、いざという時は地域住民へエネルギー供給できることは必須条件である。	地域で有効なエネルギー活用ができるよう施設を検討して参ります。
21	「電力需給のひっ迫やエネルギー・環境戦略の見直しを背景として、分散型電源として廃棄物等の熱回収によるエネルギー供給が果たす役割が、一層促進することが求められており、現状の廃棄物処理施設における発電効率や余熱利用の割合を高めていくこと」これが全てであり、このような熱供給体制が世界でできている自治体もあることから、実現可能かどうかは議員・行政職員の熱意とセンスの有無にあると思う。いまさらパブリックコメントで意見を徴収するようでは根本的に何かが足りないのではないか。その部分を真摯に考え、真剣に補正できるかどうかの問題であろう。廃棄物等の熱回収によるエネルギー供給を実現した自治体でかかった総コストは道路工事の何倍なのか調べて欲しい。	焼却施設による発電技術は、格段に進歩しておりますので、鎌倉市の焼却規模でも発電が十分に可能な時代となっております。いかに効率的な発電や余熱利用を行うことが重要な課題となりますので、その時の最新技術の導入を検討し、効率の良い発電や余熱利用の実施に努めて参ります。

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
22	名越センターの改良工事費用と、新たな施設の建設費用の回収のために、焼却炉の熱(ごみを焼却して得られるエネルギー)を利用し、鎌倉のブランド力を強化するために、①温水プールの建設(できれば従来のプール施設だけではなく、スパのようなラグジュアリーな設備を作り、観光客の増員を期待できるような大型施設が望ましい)②ハウス栽培(農家に熱を提供して野菜を作ってもら。鎌倉野菜のブランド力を高め全国に広告できれば、鎌倉の町としてのブランドも強化できる。また、その野菜販売から、副次的な食産業が増大する。観光収入の増加や安全な食物に対する認知度・理解度の向上も期待できる)	ご意見にありますように、発電、余熱利用の有効活用を検討して参ります。
23	今回の基本構想にあげられている、ごみ焼却施設の創出するエネルギーの有効利用、エネルギーの地産地消としてのごみ発電として、地域住民、そして鎌倉市の特性を活かしながら、新たな可能性あふれるごみ焼却施設が将来稼働されるよう、これからも行政と市民がひとつとなって目指していけたらいいと思います。	今回いただきました多くの方のご意見を基に、今後も、市民の皆様と可能性あふれる焼却施設を建設できるよう努力して参ります。
24	「ごみ処理×エネルギー回収・資源化」ということ。また、それがゆくゆくは鎌倉市民の財産になるという視点・方向性はとてもよいと思いました。	
25	バブル時代のごみ焼却施設につきましては、排熱利用によるスポーツジムや温水プール等の市民施設を併設する例が多く見られますが、これはそれなりの資金規模も膨大となり、その維持管理にさらに多くの資金が必要となり、本施設規模では適切とは言えません。むしろ最近の流れとしまして、排熱利用によるタービン発電機を設置することで、発電施設併設程度が有効と思われます。さらにその利用目的として、パッカー車の電動化により、このパッカー車の夜間充電に利用できるシステムが実現可能と思えます。さらに余った電力の売電検討もなされていましたが、電気自動車充電スタンドを設置して市民への施設提供も可能になります。	ご意見にあります、ごみ収集車両の電気自動車化等につきましては、環境負荷面、経済面等を総合的に検討していく中で、最良の施策を検討して参ります。
26	熱は熱のままエネルギーにするという発想も検討導入していただきたいと思います。排熱を電気に変えるばかりでなく、排熱で温水を作りそれを地域に回す、広くなくとも、今回の施設ができる周辺地域に回してみようということです。	焼却施設が生み出すエネルギーを有効活用できるよう、熱回収、発電等最良の施策を検討して参ります。
27	ごみ焼却施設のサーマルリサイクルにおいて、適正な技術があるなら賛成ですが、どのような方法で発電するのでしょうか？熱は当然、熱のまま利用するのが効率的です。そして、送電にしろ送熱にしろロスがあるので、施設内せめて近くで利用することが望ましいです。(試算には「発電収入」の項目がありましたが、10年後も同程度だとは考えられません)エネルギーもゴミも減らしていくのが理想なので、焼却施設内(隣接する)に温水プールや銭湯をつくるような、熱利用がいいです。地域の憩いの場にもなり、プールの場合、健康増進に、銭湯の場合エネルギーシェアにもなります。	発電は、確立された優れた技術であり、今後の焼却施設になくてはならないものと考えております。熱回収、発電等、どのような手法を活用していくのかは、今後、環境負荷面、経済面等を総合的に検討し、判断して参ります。
28	「災害時や防災の観点からも施設の重要性は高く評価される」とありますが、どのように有用なのでしょう？発電していても、①発電に電力会社の電力を使っている②送電網につないでいる場合はなんの役にも立たないのは東日本大震災で経験済みです。災害時に備える機能を求めるのであれば、オフグリッドで自家消費分を賄える排熱利用の銭湯付きの施設をお願いします。	発電設備があれば、災害時に問題となる、ごみの焼却処理が滞ることなく処理することができます。また、非常用燃料の備蓄庫としての役割、避難場所、ランドマークなどの役割を整備することにより、焼却施設も災害拠点になり得ますので、こうした計画を新焼却施設に反映させていきたいと考えております。
29	ごみ処理は自前処理が原則であって、他者に頼る計画は破綻し場合に取返しが不可能である。東京小金井市の例を見れば自明のことである。	現在、鎌倉市と逗子市は、広域的なごみ処理の協議を継続しております。今後は、災害時やメンテナンス時における燃やすごみの自区外処理等、総合的なごみ処理の役割分担など、二市における有益な広域化の在り方について慎重に協議を進めて参ります。
30	「逗子市との広域処理について協議を進めるが、鎌倉市に新たな焼却施設を建設する」との方針は賛成です。この場合、ごみ発電設備を設置することは必要と考えます。	
31	鎌倉市単独で自前の処理施設を持つことは、地域のことは地域内で処理する理念の基、必要不可欠と考えます。	
32	鎌倉市のごみ処理の方向性としてはストーカ炉による「ケース4」で計画していただきたい。逗子市との協議は逗子市の意向で保留になっていると聞いているが、固執はしないがケース3の広域化を進めることが最良である。立地を鎌倉市に拘ることもない。	

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
33	第2章にある建設用地に関する検討は今後も十分に考察し、市民全員、周辺住民の方たちも賛同できるような立地に建設設定を。かつ安全に進めていけたらいいなと思います。今回のようなパブコメや公聴会など、市民と環境課がしっかり意見交換をできるような機会をこれからもよろしく願います。	
34	建設用地については、諸条件を述べるのは良いが、抽象論だけでなく、基本的な考え方を述べるべきである、たとえば今まで今泉、名越と山間部で建設してきたから今度は海岸部とか…。あるいは焼却施設の建設は当該地域の住民の理解が得られるような都市環境づくり(緑化の推進、道路の拡幅、電線の地中化、還元施設の建設、コミュニティバスの運行…)を条件に今泉、名越を継続する方向などである。候補地の選定は基本計画(25年～26年)となっているが、基本的な考え方は提示すべきである。	建設用地に関しましては、市民の皆様にとって最大の関心事であると認識しております。現在の名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンターにおいては、物理的に新焼却施設を建設することが不可能なことから、新たな建設用地を検討することが前提となっております。建設用地の諸条件等の詳細につきましては、今後、市民の皆様と議論を重ねる中で、候補地の選定を慎重に検討していきたいと考えております。また、ご意見にありますように、今後も、パブリックコメントなどを通じて、最新情報を共有し、多くの市民の方からのご意見、アイデアをいただけるような機会を設けていくことを考えております。
35	立地選定に当たっては、鎌倉市(及び周辺行政)と施設周辺の住民との合意形成が非常に大きな課題となり、計画の修正あるいは大幅変更が生じる可能性もあると考えます。またごみ焼却施設建設の最大の課題であり、アキレス腱になる可能性が高い課題ですので、別途、意見交換できれば幸いです。	
36	第3章2建設用地に関わる諸条件、(3)建設用地を選定するための諸条件の整理(P33)に関連して、施設用地あるいは環境の汚染防止対策は十分に行い地域住民に説明する必要があります。本構想にも入れた方がよいのではないのでしょうか。また「ごみの収集ルートを含めた通行路の幅員の確保も考慮する必要があります。」と記述されていますが、今泉クリーンセンターの焼却が停止された後、移行期間であれ、名越クリーンセンターに集中する収集車対策を本構想にも入れた方がよいのではないのでしょうか。	建設用地については、環境アセスメント(生活環境影響調査)等を実施しますので、今後、基本計画を策定する過程で、詳細を示していきたいと考えております。また、基本的に、ごみの減量・資源化の施策により、名越クリーンセンターに出入りする清掃車の台数が増えない手法を検討しており、名越クリーンセンターの地元住民の方にはその旨の説明を実施しております。
37	建設用地として学校、公園、大規模病院等を周囲に配置し、災害時の避難場所、防災拠点と位置づけることは、理想としては望ましいが固執することではない。緑地保全などと言っていないで、緑は一杯ある鎌倉市であるから、市民のために何が一番良いかを考えて、公害なども考慮して緑の中に、想定される地震・津波が来ても安全な用地を確保することである。	
38	立地条件につきましては、民家からある程度距離を置いた場所での設置を考えますと、ある程度は森林伐採して敷地を作っていくことになる可能性もあり、その場合であったとしても周りを森林公園化にして、迷惑施設を払拭するような形づくりが必要かと思えます。いくつかのベンチを設置すれば、鎌倉に来たウォーキンググループの昼食の場を提供出来たり、もう少し整備して市民農園やさらに排熱利用したグリーンハウスを作ること、鎌倉野菜の栽培施設を提供出来たりとか、より自然に溶け込める施設づくりを目指していただければと思っております。	ご意見にありますように、安全で、安心して処理できる焼却施設の建設に向け、様々な角度から建設用地を検討したうえで、将来の焼却施設の在り方を検討して参ります。
39	ケース4の植木剪定枝等のゴミを同時に燃やす場合、一般ゴミよりも放射性物質を含む焼却灰が予想される為、慎重に検討する必要があると思えます。	今後も、市民の皆様と共に進めて参りました「ゼロ・ウェイスト-かまくら」の実現を目指しながら、ごみの減量・資源化を進めるとともに、環境負荷に配慮したリサイクル等を進めていきたいと考えております。ご意見がありました件も含めまして、今後の検討課題とさせていただきます。
40	放射性焼却灰について記載がないことが気になります。	現在、焼却灰については、問題のない数値になっておりますが、将来に向け、災害等に備えた考え方を検討して参ります。

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
41	名越センターの改修工事と、平成37年頃に新たな施設を建設する案に賛成します。	今後も、鎌倉市にとって、安全で安心なごみ処理行政に努めて参ります。
42	稼働30年以上頑張ってくれている今泉・名越の2ヶ所の焼却施設に対して、そして、周辺住民のみならず、感謝の気持ちでいっぱいです。	名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンター近隣にお住まいの方々には、これまでご理解・ご協力をいただき、円滑に業務を遂行させていただいております。今後も、地元住民の方とは、コミュニケーションを取りながら、安全に配慮した業務に努めて参ります。
43	最後の57ページの「暮らしに役立つごみ処理施設」の絵がとてもよかったです。このような夢を描かれているのか～とイメージが湧きました。夢で終わらず、対話を通しながら民主的に現実化するよう、市民として関われることは積極的に関わっていきたくと思っています。	今後も、行政が発行する刊行物等は、創意工夫を凝らしながら、わかりやすいものを作成していくよう努力して参ります。
44	まずはわかりやすい概要を作ってくださいありがとうございました。おかげでなれない者には難解ながらも意見を出すことができました	
45	本計画は、長年の懸案事項であり、計画のスケジュールに則って、スムーズな進捗を期待しています。	新焼却施設の建設は、鎌倉市にはとても重要な施策ですので、今後の計画を円滑に進め、新焼却施設が建設できるよう努力して参ります。
46	読みました！植木剪定枝の混焼による発電など、すぐまじめに考えていてワクワクしました。バイオマスについては技術的にもっと効率を上げる方法が探せるといいですね。僕は弁理士で、自分でも発明をたくさんしているので、技術面からサポート出来れば嬉しいです。	今後ごみ処理施設やリサイクルの手法については、最新技術の情報収集に努めて参ります。
47	第1章の2(4)(6)などはどこまでが国の取り組みで、どこが鎌倉市の取り組みか、よくわかりません。	今後、基本計画等を策定していく過程で、国の施策、市の施策等の区別が容易にわかるよう工夫を凝らして参ります。
48	私は市長の言う「ごみの戸別収集」には反対であるが、ケース2に言う減量達成とはこの戸別収集が入っているのか？明記していただきたい。また、ケース4～6では分別方法が変わって現在の8分類が3～5分類になり回収曜日の変更は発生するのか、また、回収コストが少なくなると思われるが、表3-9に反映されているのか判らない。	ケース2では、戸別収集で見込んでいた削減量を含んでおります。また、ケース4～6は様々なケースを想定するために、仮に検証を行ったものですので、ここでは、分別方法の変更までは検討しておりません。本基本構想では、あくまでも焼却量に伴う発電効率からの検討を行っております。今後は、リサイクルに係る費用等を含めた経済効果、環境負荷面等を総合に検討し、よりわかりやすい説明に努めて参ります。
49	私は名越クリーンセンター、笛田リサイクルセンター、山崎浄水場は見学に行ったことがあるが、なるべく地出地消で外部業者に依存しない体制をとってほしい。	ご意見にありますように、努力して参ります。
50	植木剪定枝は家庭のまきストーブに使えるようにしたり、紙オムツは病院や公共施設のボイラーに使えるようなシステムを整えたり、柔軟な発想のごみ処理行政をお願いします。	リサイクル等につきましては、今後も、最新技術を参考に経済面、環境負荷等を考えながら対応して参ります。
51	なぜバイオマス関連の計画をやめたのか、きちんとした理由説明をする必要があると思います。燃やさない、削減を唱えるとすれば、バイオマス計画が中止されたのは矛盾した結論ではないでしょうか。	現在は、バイオマスエネルギー回収施設を建設しないで、ごみの減量・資源化に取り組んでいく施策を策定し、焼却量の削減に努めておりますが、バイオマス等における技術進歩は目覚ましいものがありますので、今後も情報収集に努め、研究を重ねて参ります。

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
52	現在でもトップレベルの資源化率は、まさに市民の協力の成果であり維持すべきである。	
53	植木選定ごみ、資源化ごみの混焼はすべきでない。焼却施設に高率の発電設備を併設し発電しても、それはあくまでもごみ焼却施設であって発電施設ではない。トップレベルの資源化率は維持すべきである。東京都が家庭ごみのプラスチックを焼却するのは埋め立て処分場の逼迫があるからである。発電量を増やすために植木選定ごみ、資源化ごみを焼却するのは本末転倒である。	
54	極端に都市化が進んでしまった鎌倉市に於いては、何処に焼却炉を建設しようとも、近隣住民にとっては健康面でも精神面でも大きな負担です。このような場合に行政が一番に考えるべきことは、負担の軽減と負担の分散です。負担の軽減については、様々な方策が考えられますが、現在の定義における「燃やすごみ」を全部焼却処理するのではなく、技術的に可能でコスト的にも妥当な範囲内で焼却以外の処理手段が考えられる物質は全て焼却対象から外し、焼却以外の方法が無い物質だけを焼却する。バイオマスエネルギー回収施設の建設を止め、お金のかからない施策により1万トンのごみの削減を考えているが、燃やすごみの量が3万トンまで減れば、あとは全部燃やしてしまってもよいのでしょうか。	本市は、これまで市民の皆様のご協力のもとにリサイクルできるものはリサイクルしていくことで、リサイクル率(資源化率)は、ここ数年40数%で推移し、全国的に高い数値となっております。本市では今後もゼロ・ウェイストの理念を基に、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)を推進し、ごみの減量のための取り組みに努めて参ります。また、リサイクルについては、新たな焼却施設を建設する上で、サーマルリサイクルも一つのリサイクルと捉え、これまでのリサイクルにかかるコストや環境負荷等を検証し、改めてリサイクルの在り方を検討する必要があると考えております。
55	現在、鎌倉市のごみ発生量は、年間約7万トン。4万トンの燃やすごみの焼却処理費が約22億円(市民一人当たり約12,500円の負担)、燃やすごみ以外の約3万トンの資源ごみの処理で約11.5億円かかっている(市民一人当たり約6,700円の負担)。環境負荷・資金負担を抑えるためにも分別徹底は重要となる。	
56	これまで折角、市民の協力を得ながら地道に実行してきた、ゴミの分別収集の努力を無にするような施策になるようなことは残念ですから、これを生かす方法が望ましいとは思いますが。もし今後も植木剪定枝を堆肥にする方法が続く場合は、3kg、5kg、10kgなどの袋詰めにして、利用者に安値でも有料化する方法が望ましいと思えます。	
57	鎌倉市は資源化率で全国2位になったことはあるが、1位との違いは何処にあるのかの記述はない。市民に努力目標を与えるために調査し・発表して欲しい。	
58	平成27年度3月までに年間1万トンの燃やすごみ削減には、リデュース・リユースの推進と共に、市民・事業者双方に更なるごみの減量・資源化の協力を仰ぐ必要あり。生ごみの自家処理率の向上、資源ごみの分別徹底、有料化・戸別収集等の実施には、行政と各自治・町内会と結ぶ廃棄物減量化等推進委員の積極的活用が必要となる。	
59	リサイクルNo.1でうかれてはいけません!ペットボトルを再利用しても次は燃料になるだけ。リデュースにこそ力を注ぐべきです。	ごみの焼却量を減量するには「ごみを持ち込まない」「ごみを作らない」「ごみを出さない」社会づくりが必要であり、それには市民、事業者によるリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)の取り組みが必要であると考えており、今後も引き続き、取り組んで参ります。また、このような取り組みを促すために、廃棄物減量化等推進員をはじめ、ごみ減量に取り組む各団体と協働していく必要があると考えています。各人、各団体の活動が互いに相乗効果を生むよう、市として取り組んで参ります。
60	飲食店で働いていましたが、包装パックなど、プラスチックのゴミも多く、リサイクルできるとはいえ、もっとリユースできる文化というか環境に配慮した暮らし方ができるのが鎌倉に住む人々ではないかと感じました。	
61	まずは何よりも、ゴミの減量だと思います。子どもやお年を召した方でも、一目見て解るようなポスターの掲示など、市民総出で取り組むプロジェクトができるとよいと思います。	

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
62	<p>非電動型生ごみ処理器『キエーロ』を使い始めて、約三ヶ月ですが、生ごみに対する意識の変化が感じられるようになりました。ゴミは、出す物(そして処理してもらうもの)から、自らの責任で処理するものであるという意識に変わりました。基本構想にある、ごみ焼却施設ありきではなく、ごみを出す者の自己責任として、市民一人一人の考え方の変更が重要であると思います。特に、大量の重油を必要とする生ごみの焼却には、抜本的な対策が必要と考えます。少し強引な考え方かもしれませんが、鎌倉市の全家庭に強制的に生ごみ処理器を置いて、家庭で出た生ごみは、家庭で処理するようにすれば、大量の重油代金を、鎌倉市民に還元できると思います。さらに、『キエーロ』の制作及び販売は、障害者の方の賃金上昇に役立つと聞いております。エネルギーの地産地消を考えるならば、鎌倉市内でできる事を最初に考える必要があると思います。</p>	<p>ごみの焼却量を減量するには「ごみを持ち込まない」「ごみを作らない」「ごみを出さない」社会づくりが必要であり、それには市民、事業者によるリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)の取り組みが必要であると考えておりますので、今後も引き続き、取り組んで参ります。ごみを減量する施策については、本市のごみ処理基本計画において、生ごみ処理機の活用をはじめとする家庭での取り組みや、生ごみの水切り、事業所での取り組み等の啓発施策を盛り込んでおり、市民の方や事業所の皆様が取り組みやすい啓発事業に努めて参ります。</p>
63	<p>「ゼロウェイスト鎌倉」の取り組みは引き続き推進とありますが、お隣の逗子の常設もつたいない市(不用品の持ち込み・持ち帰り場所)のように公設物々交換所を設けてほしいです。リユースネットはすでにありますが、物の回転率がいいのか疑問です。リサイクルセンターの集客率の低そうな立地条件も、費用対効果が疑問です。物が目の前にあれば回転し、即再利用につながる時間は単純に短縮できます。またそれが市民にとっての憩いの場ともなれば、集客機能も増し、なんらかの啓発も可能です。持ち込み品目の制限を設けたほうがよい場合もありますが、まずはすでに実績のある逗子市の取り組みを参考にさせていただきたいと思います。</p>	
64	<p>ゴミ分別と、削減を強いるのであれば、スーパーや小売店での包装袋を原則渡さないくらいの改革案が必要ですし、容器も自然分解できないものは禁止にするくらいの確固たる姿勢を見せるべきである。</p>	
65	<p>ごみ処理の問題に関して鎌倉市は、フィロソフィーとして「ゼロ・ウェイスト」、コンセプトとして「環境にやさしい省資源・循環社会を実現しているまち」を掲げていますが、その先の長期戦略の具体像がよく見えません。</p>	<p>本市では、今後もゼロ・ウェイストの理念を基に、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)を推進し、ごみの減量のための取り組みに努めて参ります。また、リサイクル(再生利用)については新たな焼却施設を建設する上で、サーマルリサイクルも一つのリサイクルと捉え、これまでのリサイクルにかかる費用や環境負荷等を検証し、改めてリサイクルの在り方を検討する必要があると考えております。</p>
66	<p>ごみ処理基本計画に記されている『「循環型社会」を形成するために、市民、事業者、行政が連携・協力して3Rを推進し、廃棄物の焼却量や埋め立てによる最終処分場を限りなくゼロに近づけるゼロ・ウェイスト鎌倉』の実現を目指しています』が空回りしている印象はぬぐいきれません。</p>	
67	<p>平成27年以降の10年間のごみ焼却について、今泉クリーンセンターを閉鎖する平成27年から新しいごみ焼却施設の使用開始までの10年間焼却ごみ10,000tをどうするのが具体的に検討されていない。現行のあいまいな計画では10,000t削減するという事になっているが、この10,000tのうち4,000tは事業系生ごみである。これは主に飲食サービス業から出るごみであり、さらに言えば観光客の出すごみで事業者の努力だけでは如何とも難しいごみである。これを絶対に削減しろというのは廃業しろというのに等しく実現不可能である。この10,000tのごみが町中に溢れる事態を想定すれば、今回の世界遺産「不登録」は僥倖と言わざるを得ない。</p>	<p>平成27年度以降、ごみの焼却処理は名越クリーンセンターのみで行うことから、ごみの焼却量を年間30,000トン以下に抑えることに取り組んでおります。ごみ処理基本計画では、家庭系ごみは戸別収集・有料化等により6,020トンの、事業系ごみは分別徹底等により4,235トンの減量を計画しております。4,235トンの減量計画のうち生ごみは860トンとなっております。家庭系ごみについては、戸別収集・有料化を計画しており、同事業は市民の方の理解のうえに実施されるべきものであることから、本市のごみ事情を広く伝え、ご理解を得られるよう取り組んで参ります。事業系ごみにつきましては、ごみ処理手数料の改定を実施予定であり、分別の徹底とともに発生抑制を促してまいります。</p>
68	<p>数値化した目標に向かつて推進することは大切ですので、これからの取り組みに期待いたします。部ゴミ収集の有料化の話もありますが、ゴミリサイクルの日本一を目指している鎌倉市には必要のことと思います。</p>	
69	<p>「今泉クリーンセンターの停止」という直近の問題に対する解決策として「名越クリーンセンターの延命措置」、ごみ減量戦略として「ごみ収集の有料化・戸別収集の導入」、そして戸別収集モデル事業の全市への横展開に繋がります、これらは、緊急措置(悪く言えば、場当たり対策)で、何年も前から分かっている問題の解決を先送りしてきた結果と思う市民もいるのではないかと思います。</p>	<p>平成23年6月に中間見直ししたごみ処理基本計画により、家庭系ごみの戸別収集・有料化や事業系ごみの分別徹底等のごみ減量の施策を実施することで、ごみの焼却量を削減し、10年程度の延命化工事後の名越クリーンセンターのみで焼却処理をすることとしました。今回のごみ焼却施設基本構想(案)は10年後の新たな焼却施設を検討する第一歩となるものです。</p>
70	<p>全体として大変よくできています。ただし、第1章の2(1)に書かれている平成23年6月の第二次計画(ごみ処理中間見直し)の概要が頭に入っていないと、この計画が妥当か否か判断できません。ごみ焼却施設の前提となる第2次計画のゴミの想定量とそれから生じるゴミの焼却想定量を明示した上で、必要となるごみの焼却施設の計画を述べるべきです。</p>	<p>今後も、ごみの減量・資源化に努めて参りますので、基本計画策定時までには、ごみの減量・資源化の考え方も含めまして、ごみ質・ごみ量等の数値を精査し、ごみの焼却量等を明示していきたいと考えております。</p>

鎌倉市ごみ焼却施設基本構想(案)に対する意見募集の結果について

意見番号	意見の要旨	市の考え方
71	<p>市が現在進めている家庭から出るごみの戸別収集・有料化はごみ削減にほとんど無関係な施策である。ごみの戸別収集を有料化してまで実施して欲しいとの要望がとは考えられない。あえて実施するというならば希望者のみに適用する選択制が必須である。</p>	<p>ごみの減量のために、指定ごみ袋による有料化を計画しており、併せてごみを出す人の責任を明確にするため戸別収集を計画しております。戸別収集を行うために有料化を行うものではありません。有料化と戸別収集を併せて実施するのは、ごみの減量をより確実にするとともに、クリーンステーションの管理負担の軽減や、高齢者や子育て世帯のごみ出しの負担軽減等の効果があると考えております。また、クリーンステーション収集のまま有料化を実施した他市の事例を見ますと、指定ごみ袋以外で出されてしまったごみ、いわゆる違法ごみへの対応が大きな問題となっており、クリーンステーション近隣の方のご負担となっていると聞いております。こうしたことから、有料化と戸別収集を併せて実施することが効果的であると考えております。</p>
72	<p>「事業者の協力を仰ぐ」とあるが、事業者の減量・資源化は、法でも規定されており、もっと強く指導すべきで、市の施設への搬入は厳しくするべきと考える。</p>	<p>事業系ごみについては、クリーンセンターにて搬入されたごみの分別状況の検査を強化しており、分別の程度に応じて廃棄物収集運搬業許可業者や排出事業所へ指導を行っているところです。すでに、分別による減量効果が出始めており、今後とも検査及び指導を行って参ります。</p>
73	<p>燃やすごみを年間3万トンまで削減しても、その中には多量の生ごみが含まれます。そして生ごみの中で多くを占める残飯類には塩分が含まれます。また現状で燃やすごみに入ってくるプラスチックの一部は塩ビや塩化ビニリデンなどの塩素系プラスチックです。ダイオキシンのことを考えれば、これらの燃やすごみを燃さないで処理する方法を考えていくことが望ましいし、焼却炉立地場所近隣住民の負担を減らすために、困難ことかもしれないが、10年という時間があるので、市は課題解決に向け努力を行う義務があると思います。</p>	<p>本市の焼却施設である名越クリーンセンター及び今泉クリーンセンターは、ダイオキシン等の発生を防ぐ処理を行っております。新焼却施設の検討にあたりましては、サーマルリサイクルも一つの選択肢と捉え、これまでのリサイクルにかかる費用や環境負荷等を検証し、改めてリサイクルの考え方を検討する必要があると考えております。</p>